



金松堂様

綾衣 夜 秋 第
春 故 堂

下

中

天 野
可 春
閑

梅堂國政畫圖

伊東專三著

上



梅堂國政畫圖

伊東專三著

上

10

15

20

25

30

A481
7



綾重衣紋

返東秋

伊東

吉三巻

第三編上

の巻

接巻
國文

綾重衣紋 返春秋第三編自序

草臥て宿とも頂や藤の花と日長の節の欲張仕事。

今年向暑の頃かひ小手と出一掛し綾重の初篇

二篇のころは衣小又三編の發兌八月數日數と

累着ふて氣候は春秋過ぎ去りの五日濟が

又と同一のいとも短き日脚と成一が。

諸君の愛觀は目長めて未だ結局はと

御催促夫ゆゑ燈下のたらく急案

所謂下手の長談義也先づ此編が

大團圓看客諸君實小親金洲

明治十二年十月脱稿

明治十三年五月發市

伊東橋塘誌

東



先文百三十一

48-8197





① 右の者... 左の者...
 ② 右の者... 左の者...
 ③ 右の者... 左の者...
 ④ 右の者... 左の者...
 ⑤ 右の者... 左の者...
 ⑥ 右の者... 左の者...
 ⑦ 右の者... 左の者...
 ⑧ 右の者... 左の者...
 ⑨ 右の者... 左の者...
 ⑩ 右の者... 左の者...

⑪ 右の者... 左の者...
 ⑫ 右の者... 左の者...
 ⑬ 右の者... 左の者...
 ⑭ 右の者... 左の者...
 ⑮ 右の者... 左の者...
 ⑯ 右の者... 左の者...
 ⑰ 右の者... 左の者...
 ⑱ 右の者... 左の者...
 ⑲ 右の者... 左の者...
 ⑳ 右の者... 左の者...



① 幸...
 ② 幸...
 ③ 幸...
 ④ 幸...
 ⑤ 幸...
 ⑥ 幸...
 ⑦ 幸...
 ⑧ 幸...
 ⑨ 幸...
 ⑩ 幸...

⑪ 幸...
 ⑫ 幸...
 ⑬ 幸...
 ⑭ 幸...
 ⑮ 幸...
 ⑯ 幸...
 ⑰ 幸...
 ⑱ 幸...
 ⑲ 幸...
 ⑳ 幸...

二人小唄をいれぬま
修らすむきあかぬあがり
本より二回再交見せ
舞はかたふ入母の波に
鳥をのりぬ何れと
幸と南より早
聞はたさぬのみの上
波の流る小瀬を
其行先は如何せと
母も同じを回るさ
はさつし波のしとあり
海をいしとあり



悦び長太郎の家来
波に二句
百各自落り会中おちちよ
の波打向ひをくこの余



史と家手へ付小
折敷後相
肩をひき
と音解ハ
古満家の多
ある深四郎
分めて二三
と中まき者か
本より二回再交見せ
舞はかたふ入母の波に
鳥をのりぬ何れと
幸と南より早
聞はたさぬのみの上
波の流る小瀬を
其行先は如何せと
母も同じを回るさ
はさつし波のしとあり
海をいしとあり



新編
三冊



西のふらふら
則江のふらふら
三母の吾徳と吊ら
りんとかあるふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら

守あるふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら

ふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら

官 朝鮮
計 名法
牛肉丸

官
計 天泰丸

文 錦繪問屋

出校御番明公五年九月廿日

金松堂 出校 辻問屋 文一物

天泰丸 一書八冊 一人一冊の
その〇らとを中うの馬やと海う
〇下うあひのききうふうのさん
さんとのせん〇小足丸月日た
一切のせんしりひて加路通う
ふらふら

010190511745





10

15

20

25

30

A481
8

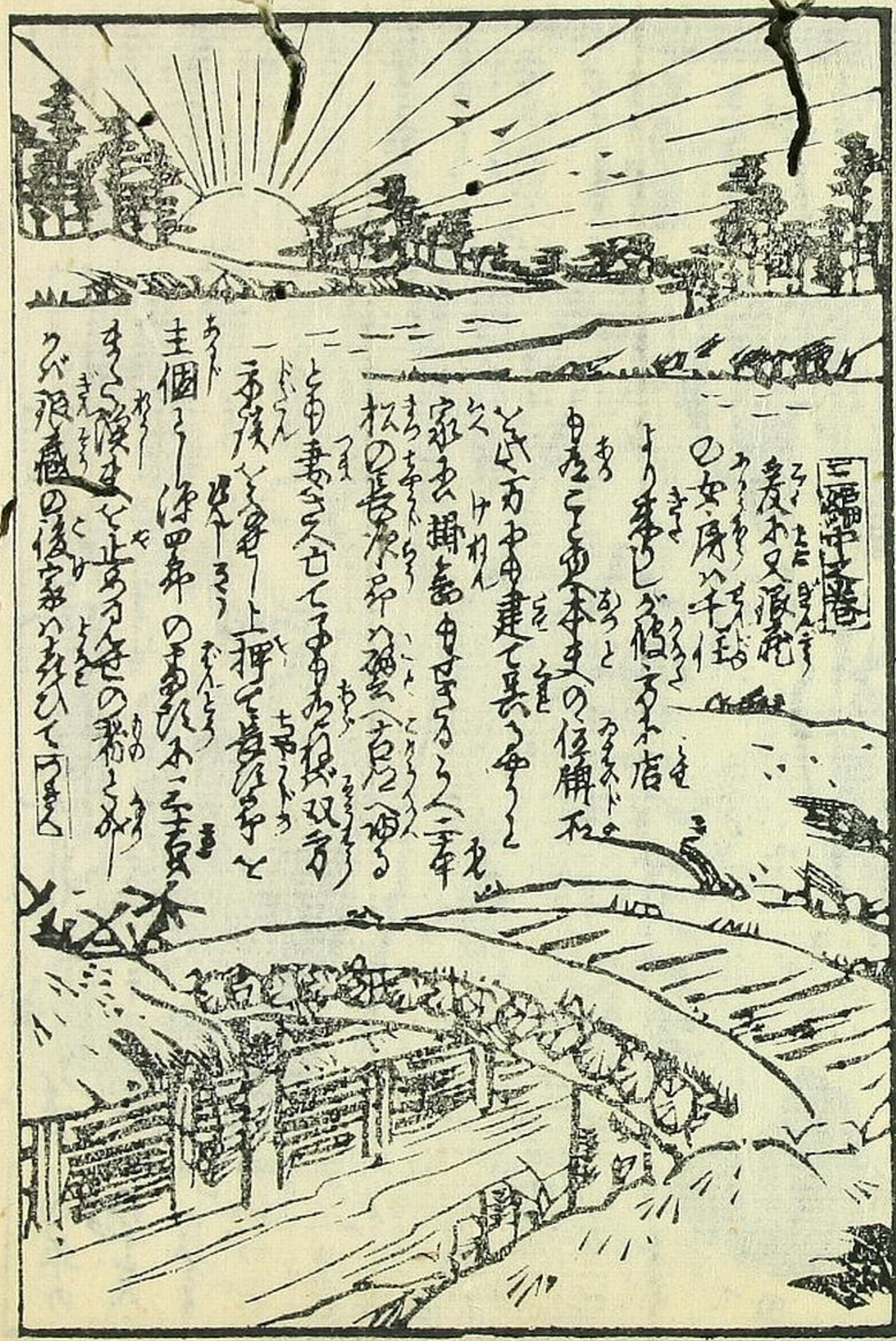
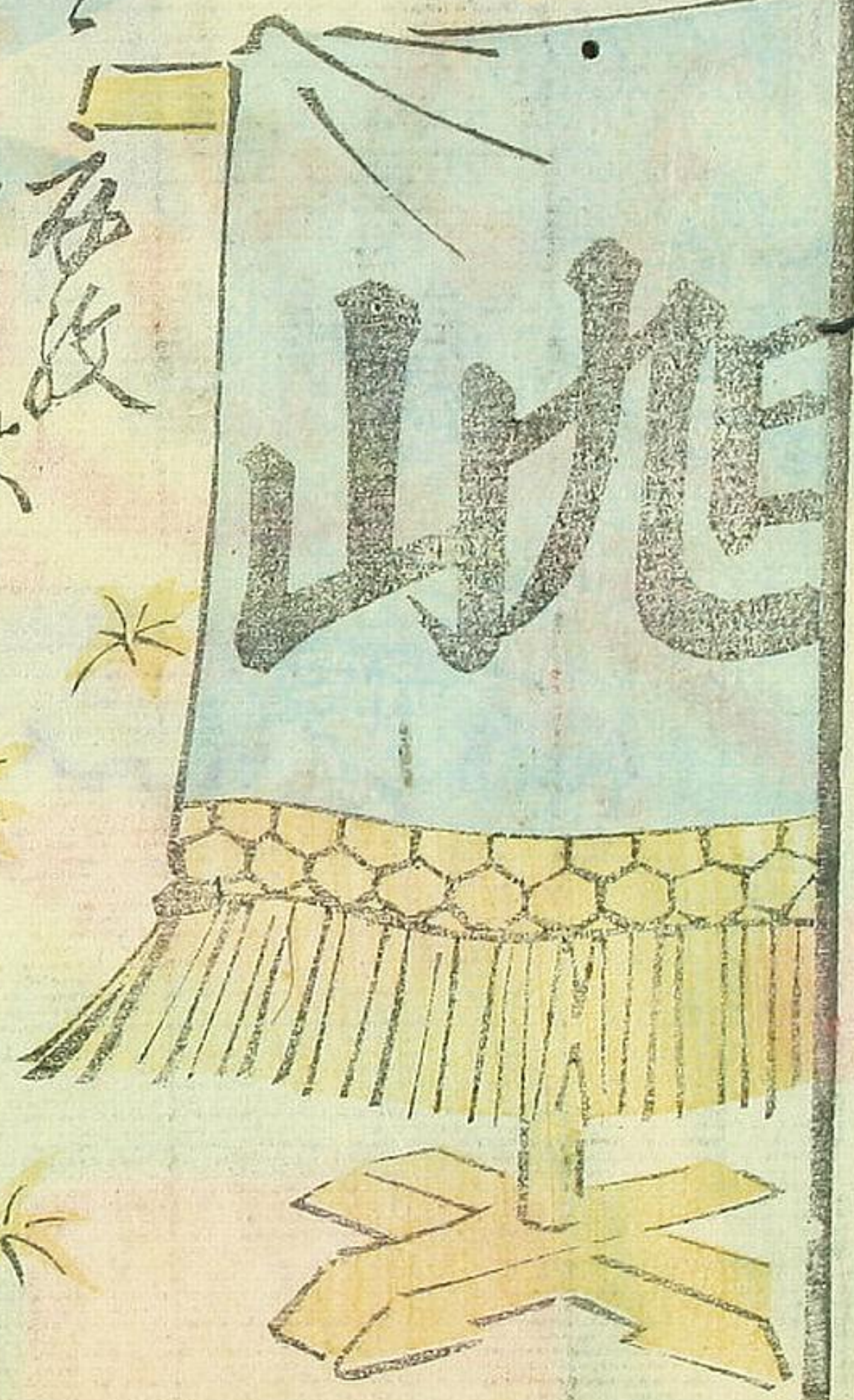
後を
夜故

まき
杖

第之海中の巻

辻文挿

山



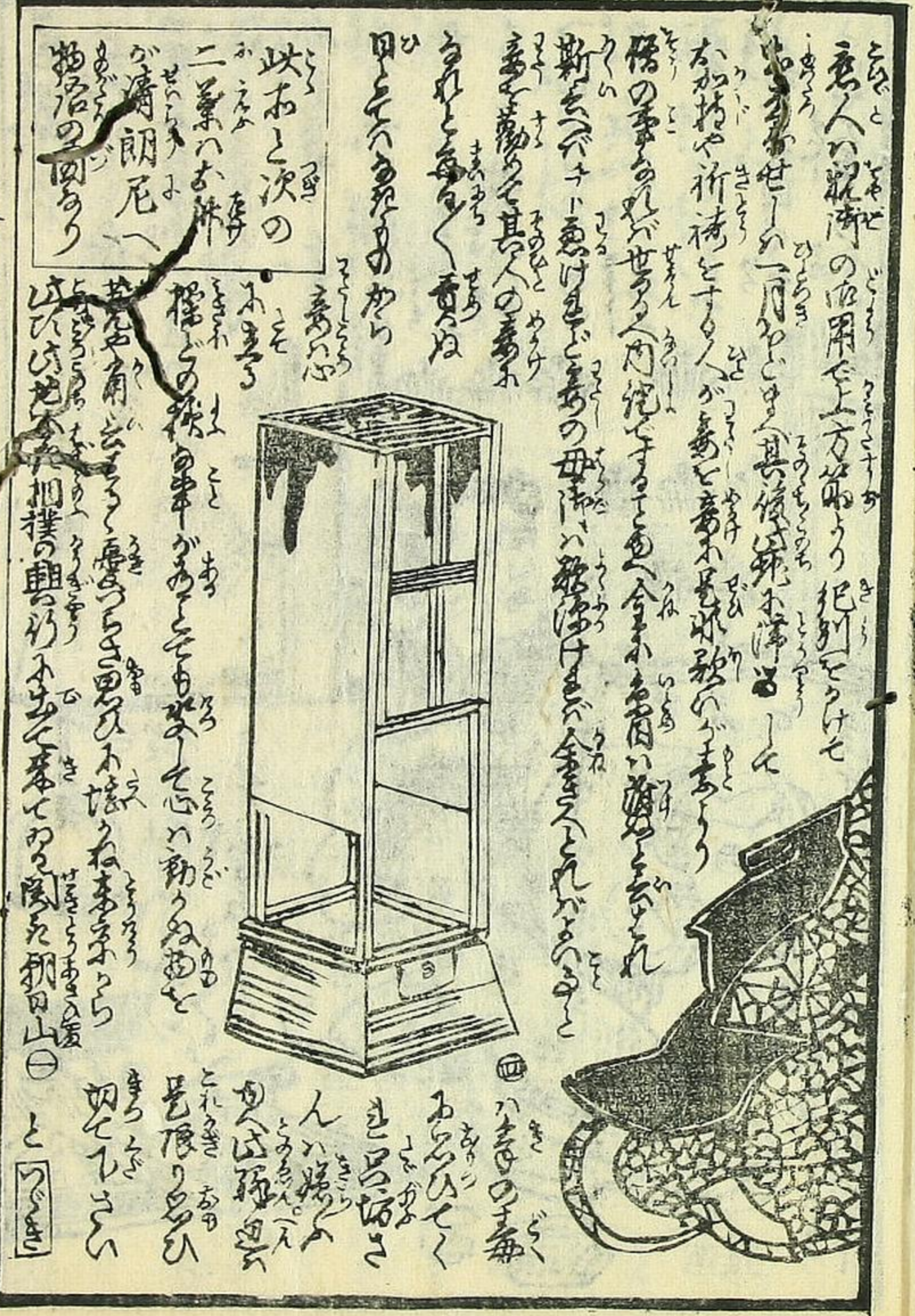
三編中巻
妻小又浪花
の女房の千住
より奉じが宿方本店
由るての本史の任牌石
と成方中建て異う争う
家去掛あの中りるう二奉
松の長次郎の御(古)の御
と申妻と云て申あはれ双方
不承し申上押で長次郎と
主個う海四郎のあはれ小三
まに波止と止るる年の君と
久浪花の後家へあはれて

48-A198



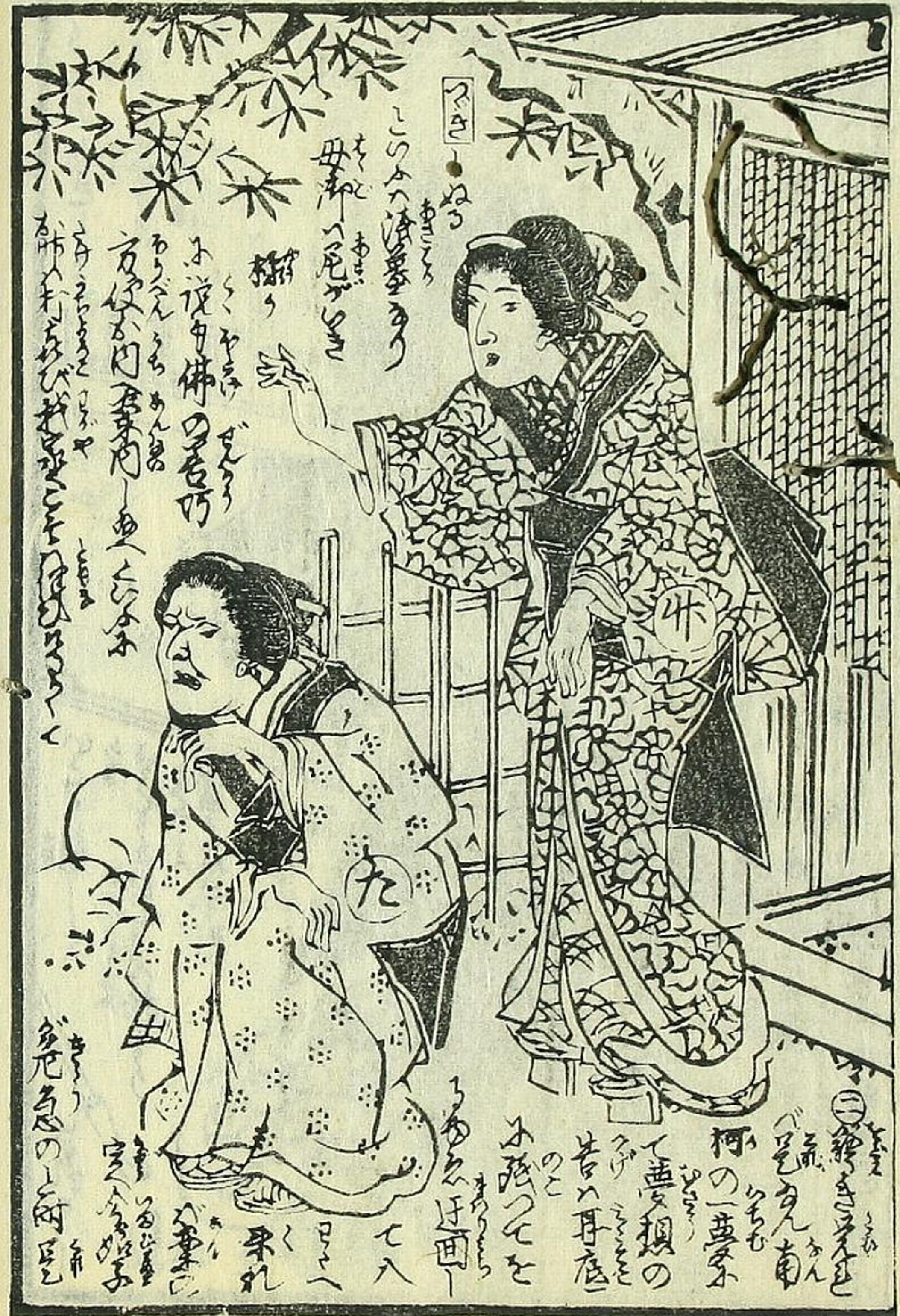
此の
 二葉の
 清朗尼
 物居の
 雷
 八幡の
 夜
 八幡の
 孝次郎
 一
 ち
 志

人の
 竹馬の
 朝日
 山



此の
 二葉の
 清朗尼
 物居の
 雷
 八幡の
 夜
 八幡の
 孝次郎
 一
 ち
 志

人の
 竹馬の
 朝日
 山



この人清きまの
母津の尻に
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く

お説中佛の巻物
方ばかりを丸く
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く

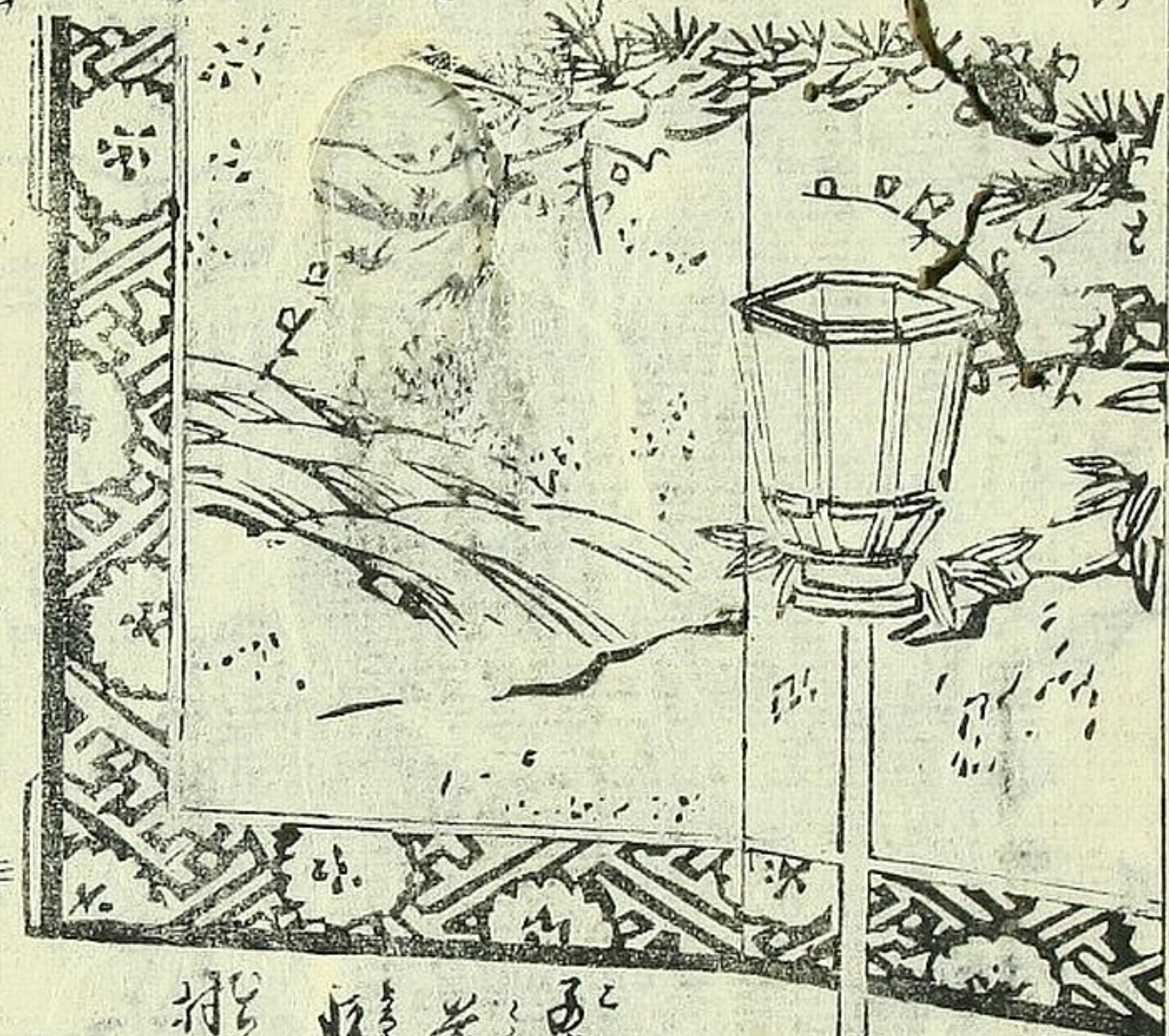


情朗死のあつた
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く

お説中佛の巻物
方ばかりを丸く
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く
お説中佛の巻物
方ばかりを丸く

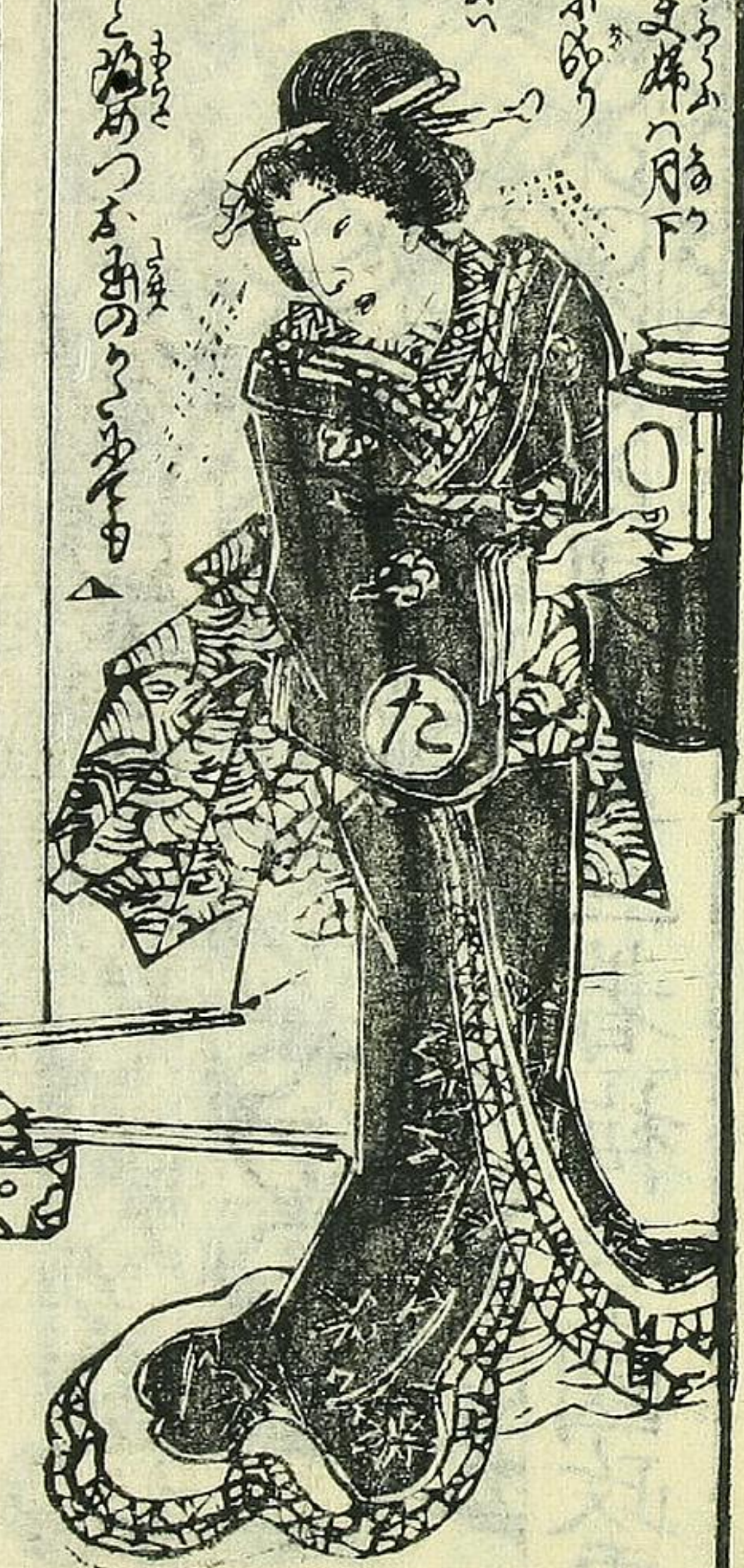


木白の袴中
はるき
いづく
あつま
はるき
いづく
あつま
はるき
いづく
あつま



男女のふと寝中
はるき
いづく
あつま
はるき
いづく
あつま
はるき
いづく
あつま

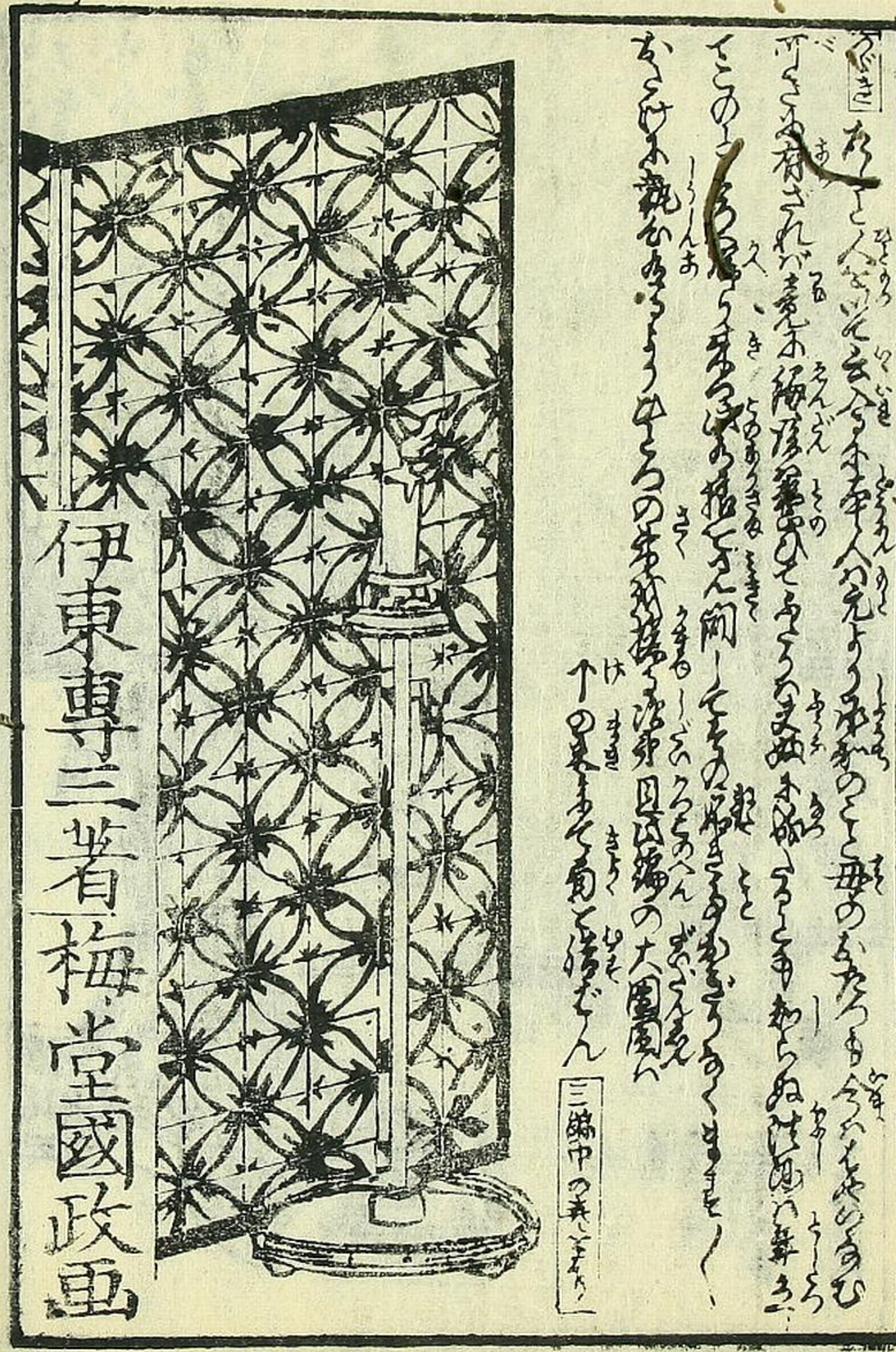
氷人おめり
えねおまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの



おまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの
おまの

此の書は、
 伊東專三の著書である。伊東は、
 戦国時代の武将で、伊豆の国に
 居た。この書は、伊東の生涯を
 記述したものである。伊東の
 生涯は、戦国時代の歴史を
 知る上で重要な資料である。
 この書は、伊東の生涯を
 記述したものである。伊東の
 生涯は、戦国時代の歴史を
 知る上で重要な資料である。
 この書は、伊東の生涯を
 記述したものである。伊東の
 生涯は、戦国時代の歴史を
 知る上で重要な資料である。

↑の裏あて角に書かむ



假名垣魯文著

高橋阿傳夜叉譚

守川周車画

八尾編

伊東專三編輯

綾重衣紋廻春秋

梅堂國政画

一尾編

川上鼠邊編輯

國定忠次義名高嶋

梅堂國政画

九尾編

渡邊玄京編輯

名廣澤邊萍

梅堂國政画

五尾編

伊東專三編輯

水錦隅田曙

梅堂國政画

三尾編

川上鼠邊編輯

腕競心三俣

梅堂國政画

二尾編

假名垣魯文編輯

格蘭氏傳倭文賞

梅堂國政画

三尾編

假名垣魯文編輯

戀相場花王夜嵐

梅堂國政画

二尾編

出版御届明治五年

金地本問屋

錦繪

金松堂

出版人

助

大坂市平野
 三丁目
 三番地
 編輯人
 雜賀豊太郎

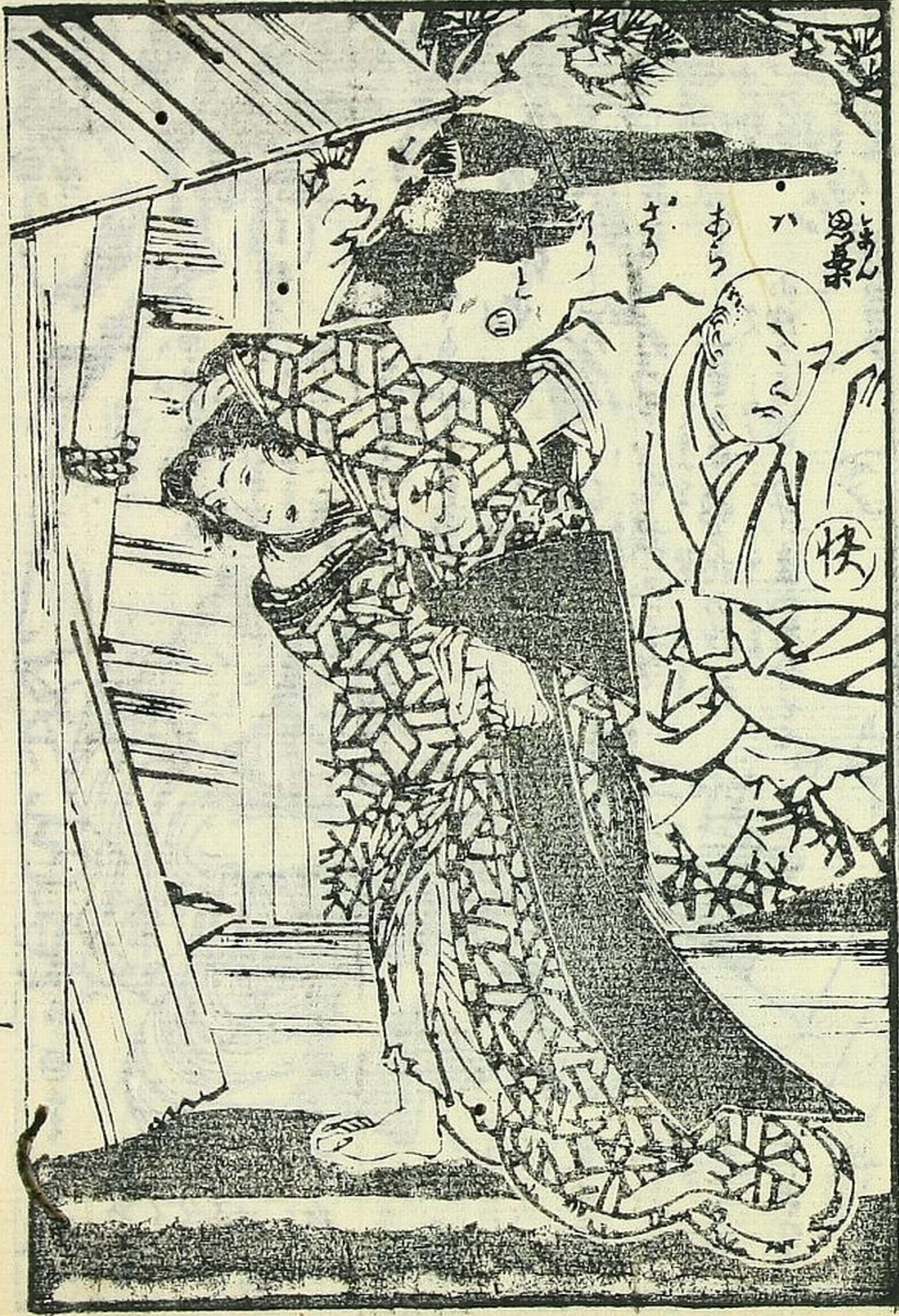




綾衣過秋筆
春紋堂

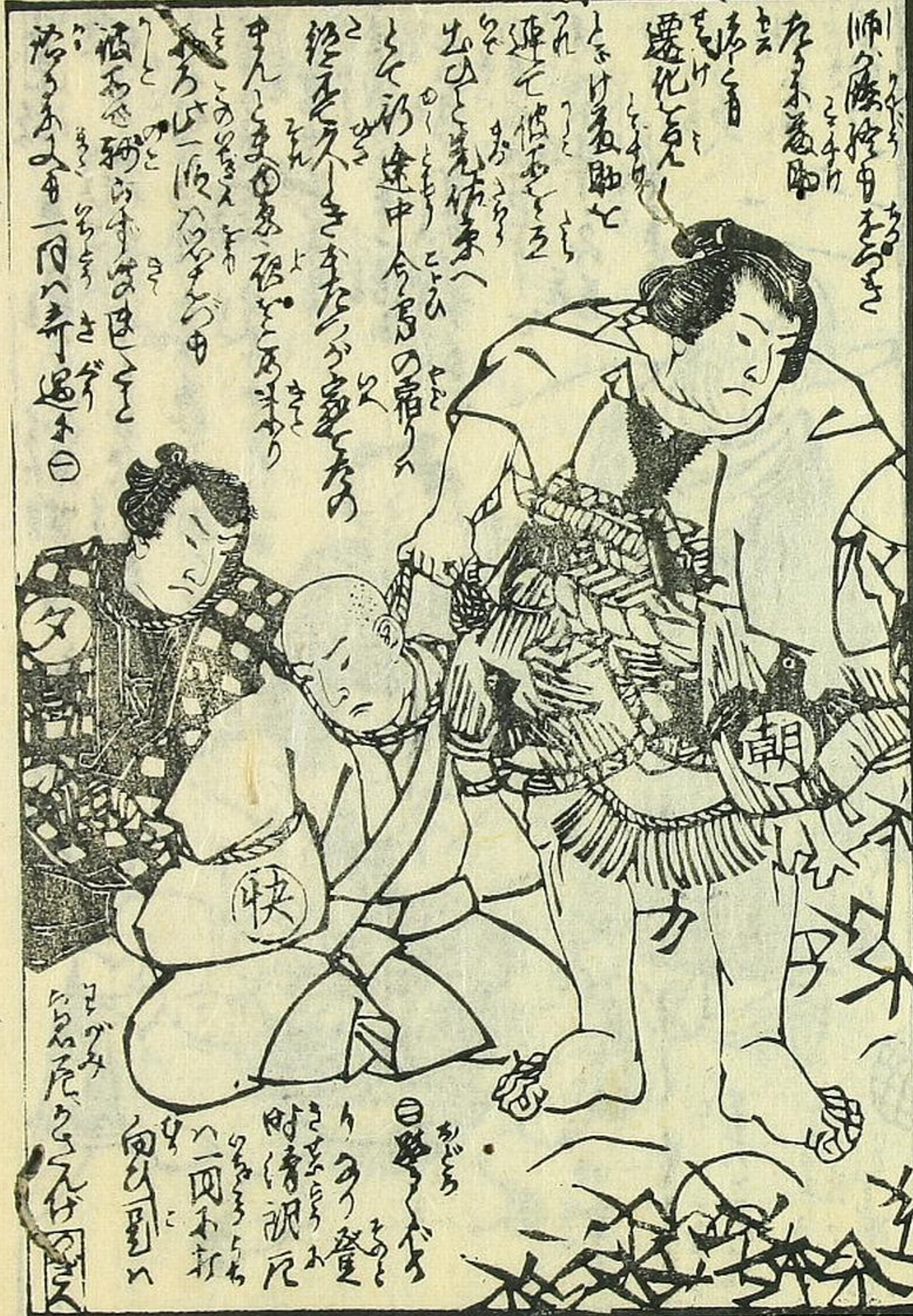
金松堂

下





乃きまきもあつて...
 母の幸より...
 死ハ生...
 雷頭師...



師...
 遷化...
 運七...
 出心...
 終...
 中...
 酒...
 浴...

日向...
 時...
 一...
 向...

